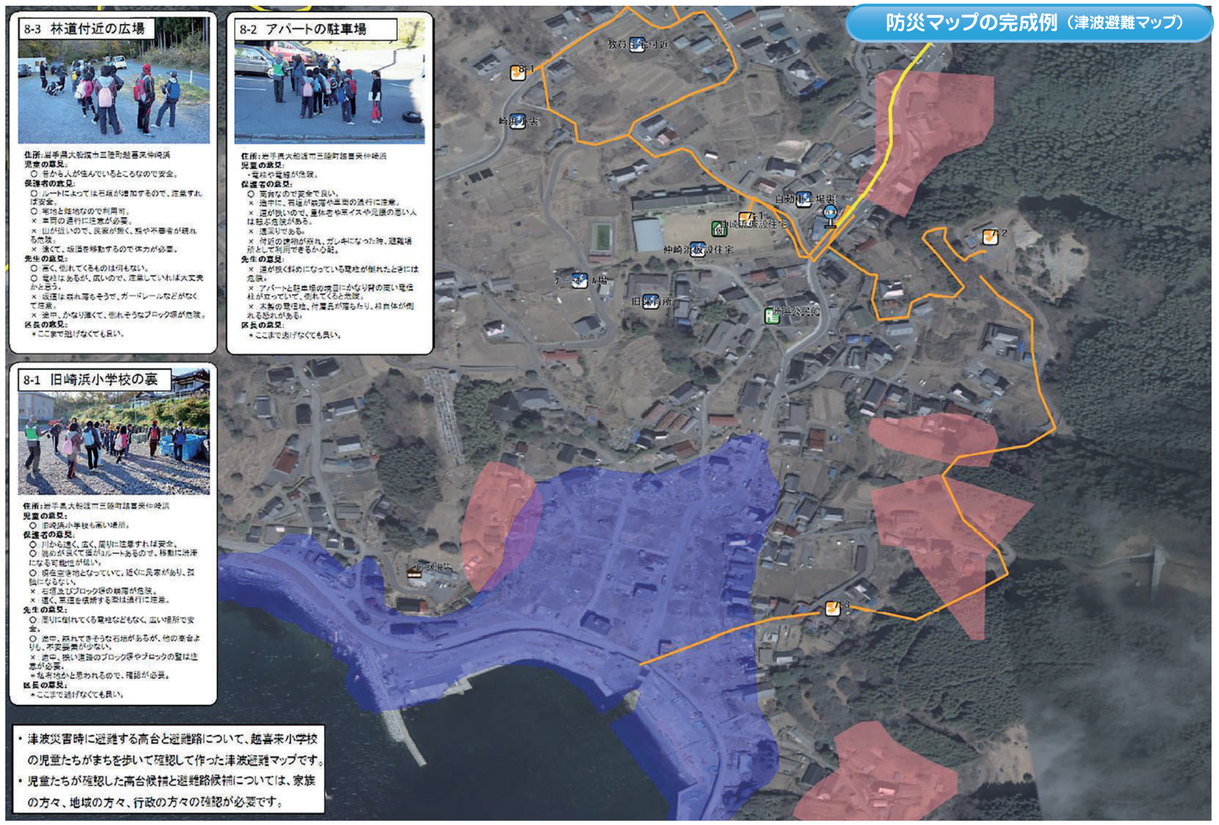
防災マップの完成例（津波避難マップ）



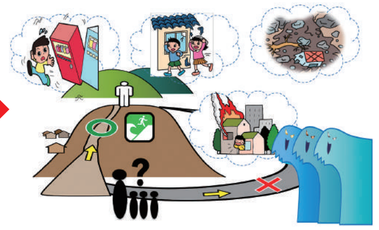
5　6　7

防災マップづくりの流れ

住んでいる地域で起きるかもしれない災害の危険性を学び、現地で確認しながら災害の時に役立つ防災マップをつくろう！

① 災害を学ぶ （地域の災害危険性を学びながら、安全な避難を検討する）

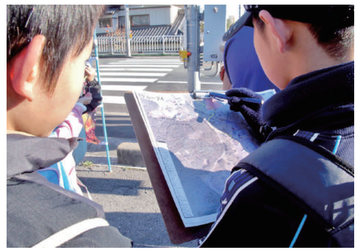
地域で起きるかもしれない災害を学び、「自分や家族、住んでいる家や学校、まちにどんな被害が発生するか」を考える。



地震が発生したときの避難場所とそこまでの道を記した「避難対策シート」をつくる。

避難対策シート

② 防災まちあるき



まちを自分の足で歩き、「避難対策シート」の避難場所がどんな場所か、そこまでの道が本当に安全か、どんな危険があるかを現地で確認する。

③ 防災マップを作成する

防災まちあるきの結果を整理して、安全な避難場所とそこまでの道を地図に記した「防災マップ」をつくる。

④ 地域発表会

自分たちが作った「防災マップ」を地域の方たちに発表し、アドバイスをもらう。

8　9　10

(4)大船渡市における震災経験を踏まえた防災教育の実践

大船渡市内では、東日本大震災津波のときに、学校でいのちを失った児童・生徒はいませんでした。しかし、将来の災害は、行き帰りなど学校の外で発生する可能性があります。

大船渡市内の小・中学生は、こうした災害の危険性と向き合い、災害の時に自分の命を自分で守るための授業に、自分たちが主役となって取り組んでいます。

本リーフレットの発行にあたって

国は、日本の太平洋沿岸の広い地域で地震・津波災害が発生する可能性があるとしており、全国のまちや学校、会社、住民は、その被害を少しでも減らすための対策を考えています。

全国の小・中学生のみなさんが、大船渡市内の児童・生徒のこうした取組を参考にして、自分の命は自分で守ることができるよう、考えていくきっかけとなることを願っています。

2

―― 協　力 ――

■一般社団法人
東日本デジタルアーカイブス支援センター

■独立行政法人 防災科学技術研究所

■特定非営利活動法人
防災・市民メディア推進協議会

■大船渡市教育委員会

■大船渡市立越喜来小学校

［発行元］

岩手県沿岸広域振興局
大船渡地域振興センター

〒022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田6-1
TEL 0192-27-9911　FAX 0192-27-1395

［発行］平成27年3月

3　4

東日本大震災津波から学ぶ防災教育

～岩手県大船渡市の「子ども防災マップ」～

※パンフレット中のQRコードをスマートフォン等で読み取ると、関連情報を見ることができます。無料で見ることができますが通信料金が発生します。

1

はじめに

(1)岩手県気仙地方の被害状況

岩手県の沿岸南部にある大船渡市・陸前高田市は、平成23年3月11日の東日本大震災津波によって大きな被害を受けました。2,304人のいのちが犠牲となり(平成26年12月末現在。行方不明者等を含む)、約8,000棟の建物が倒れたり流されました。その被害のほとんどは、地震ではなく津波による物でした。

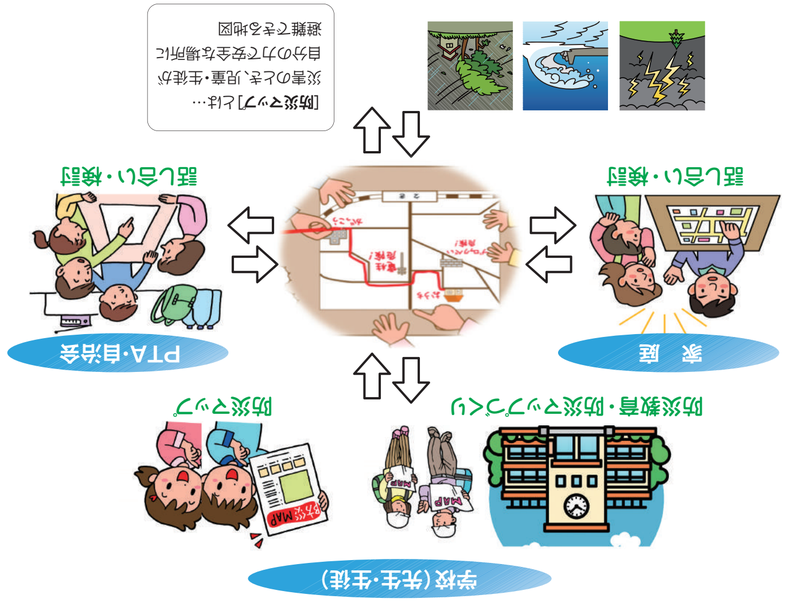
(2)学校の被害

発災時、大船渡市内には小学校が14校(児童数1,929人)、中学校が8校(生徒数1,182人)ありましたが、津波による被害があったのは5校で、そのうち赤崎小、越喜来小、赤崎中の3校は校舎が全壊してしまいました。

(3)現在の学校の状況

自分の家が壊れたり流されたりした児童・生徒の多くは、震災から4年を経過した今も、応急仮設住宅でくらしています。

また、津波で校舎が全壊した学校は、市内の小高い丘などで新しい校舎を建て始めており、工事中は仮の校舎に通っていますが、津波の被害があった危険な場所を通って学校に通わなければならない状況です。



大船渡市内の小・中学生が取り組んでいるのは「子供防災マップ」